

経営情報学会 2023 年全国研究発表大会

森本千佳子（もりもと ちかこ）
東京理科大学経営学部国際デザイン経営学科

1. はじめに

2023 年全国研究発表大会は「データ駆動型デザイン経営：洞察から価値創造へ」というテーマで開催いたしました。

コロナ禍からやっと通常の社会生活を取り戻した 2023 年、停滞した空気を払拭するような勢いで生成 AI が猛烈なスピードで発展・普及しています。そして、そのビジネスの利活用も急速に進んでいるなか、企業の事業活動の在り方やその実践の仕方もさまざまな局面で再考・再定義が求められています。このような新たな環境下での課題解決のために、データドリブンな論理実証アプローチと同時に、問題や対象への共感を通じて解決策を見出すデザイン思考のアプローチにも注目が集まっております。今大会では、この AI 時代の事業活動における新たな価値創造の在り方やその方法論について、データとデザインの融合の視点から皆様と一緒に考えていきたいと考え、このテーマを設定しました。

2. 大会実施にあたり

本大会は、2019 年以来、実に 4 年ぶりの首都圏におけるオフライン開催の全国研究発表大会となりました。会場である東京理科大学経営学部が設立 30 周年ということもあり、学長、学部、学部事務局から多大な協力を得て共催での開催となりました。

開催校イベントとして、1 日目の午後には非会員の方も聴講していただける「特別共催セッション」として、東京理科大学経営学部 30 周年記念特別セッションのパネルディスカッションを行いました。また、学会入会促進活動として、学会の新規入会者を対象とした大会参加費無料キャンペーンも行いました。

今大会では、懇親会の代わりに 1 日目のセッションの合間に「コーヒープレイク・交流セッション」

を設けました。軽食を手にいくつものグループでテーブルトークが活発に行われ、新しい出会いと旧交に話が弾んでいたようです。

結果として、2 日間を通して非常に多くの方にご参加いただき、またあちこちで積極的な交流が行われ、学会の活気を感じる大会となりました。

3. 大会の概要

開催日	: 2023 年 11 月 11 日, 12 日
大会参加者	: 237 名 (キャンペーン利用 37 名)
研究発表	: 102 件
一般発表	: 42 件
学生発表	: 24 件
ポスター発表	: 22 件
支部・研究部会	: 14 件
チュートリアル	: 1 件
企業展示	: 2 件

4. 大会 1 日目

(1) 学生発表

1 日目午前に 3 セッション、午後に 3 セッション



研究発表の様子

の合計6セッション、24件の発表がありました。

学生優秀発表は下記4組となり、当日夕方に表彰を行いました。

■学生優秀発表賞（名前は発表者のみ）

- ・斎藤識樹（東京都立産業技術大学院大学）「プロジェクトメンバーのワークモチベーションに影響を及ぼす要因の研究」
- ・茂木雅祥（早稲田大学大学院）「動画広告効果の推定における視覚的変動度の有効性」
- ・阿部俊光（法政大学）「失敗への恐怖が起業意思に与える影響：システムチック文献レビューによる研究課題の探索」
- ・藤井康生（東京理科大学）「共同研究から生まれる非公式の学習行動のメカニズム－化学産業における異分野の知識獲得に関する実証研究－」

(2) ポスター発表

1日目に3セッションを実施しました。22件の発表がありました。今回は各セッションのはじめに全セッション発表者による1分間の全体ピッチの後、それぞれの大型モニターに分かれてポスター発表する形式としました。従来の紙のポスターからモニターによる発表に変更したため、発表者ごとに工夫されたポスター発表となり、活発な質疑がなされました。

(3) 一般発表／支部・研究部会セッション

1日目午前に3セッション、午後に2セッション、14件の研究発表を実施いたしました。セッションテーマは、組織、政府・自治体、人材・能力開発、ナレッジマネジメントです。

また研究部会セッションとして組織ディスコース



ポスター発表の様子

研究部会の『語る組織』研究報告特別セッションを行いました。

(4) 開会式

田名部元成経営情報学会会長、飯島淳一大会委員長より開会の挨拶をいただきました。

(5) 基調講演

アドビ株式会社常務執行役員兼CMO（最高マーケティング責任者）里村明洋様より「データとコンテンツを基にした、実践的デジタル人材育成」と題してご講演いただきました。

■ご講演の概要

「デジタルが前提の時代において、より多くの人々がデジタルツールを活用し、クリエイティビティを発揮し、想いを形にできるようになれば、もっとワクワクする社会になるのではないか。」という問題提起から講演が始まりました。アドビ社では「Everyone has a story to tell.」（すべての人に語るべきストーリーがある）を掲げ、「Changing the World Through Digital Experiences」（デジタル体験で世界を変える）というミッションに挑んでおられるそうです。また「すでに生成AIは企業でも実際に使われているが、結局、自分たちが会社のカラーをちゃんと理解して、生成AIを使いこなしていくことが求められると思う」と述べられていました。最後に「デジタル、データ、デザイン、これらを融合して経営に積極的に活用できる人材を育てていくことがこれからの企業生き残りには重要な戦略になる」と締めくくられました。

(6) 東京理科大学経営学部30周年記念特別セッション：パネルディスカッション（東京理科大学共催）

まず、東京理科大学の石川正俊学長による総合理工系大学としての東京理科大学の強みと、そのなかの文理融合型学部としての経営学部の紹介から始まりました。その後、パネラーにより経営学とデータサイエンス、デザイン思考をそれぞれベースにした学科の取り組みと有機的総合知をいかに生み出すか熱い意見の交換がありました。最後に椿美智子経営学部長による挨拶がありました。



特別セッション（パネルディスカッション）の様子

■パネラー：（東京理科大学経営学部からの登壇）

- ・経営学科：高橋伸夫教授・渡邊万里子講師
- ・ビジネスエコノミクス学科：梅澤正史教授・照井伸彦教授
- ・国際デザイン経営学科：飯島淳一教授・中野嘉子教授
- ・モデレーター：柿原正郎教授

(7) コーヒーブレイク・交流セッション

特別セッションの後、食堂に場所を移し、コーヒーブレイク・交流セッションを開催しました。軽食とコーヒーを手に、いくつものグループが話に花を咲かせました。他大学の学生同士の交流も見られ、和気藹々とした和やかな時間となりました。

5. 大会2日目

(1) 一般発表／支部・研究部会セッション

2日目午前に4セッション、午後4セッション、28件の研究発表を実施いたしました。セッションテーマは、マーケティング、意思決定、情報化社会、教育・学習、情報システム、政府・自治体、ビジネスモデルです。

また研究部会セッションとして以下の5つの研究部会セッションを行いました。

- ・人間尊重のマネジメント研究部会
- ・IT資産価値研究部会
- ・デジタル戦略とアーキテクチャ研究会
- ・ソーシャル・データサイエンス研究部会
- ・中小企業のIT経営研究部会

(2) チュートリアル

午前に「エンタープライズ・オントロジー企業に対する知的管理可能性の向上を目指して」と題したチュートリアルを行いました。

■チュートリアルの概要

エンタープライズ・オントロジーの目的は、X線透視装置で身体の皮膚や組織を透かして骨格を見るように、企業の散漫で混乱した外観を透かして、その深い核心に迫ることで、企業についての新しい理解を提供することです。エンタープライズ・オントロジーの諸理論の紹介と、複雑な企業活動の全体像を捉え、それに対する洞察を養う演習が行われました。

6. おわりに

都心でのオフラインの大会ができてよかった、とお帰りの際にたくさんの方からお声をいただきました。会期中も充実した笑顔をあちこちで多く目にしました。研究発表件数も昨年度より増え、より充実した大会になったのではないのでしょうか。これは大会運営サイドの力だけではありません。発表者の皆さま、参加者の皆さまからのご協力をいただけたことで、このような大会を開催できたと考えております。

まだまだコロナ禍の影響も残り、オンライン参加できないかというお問い合わせもいただきました。今回は対面での交流に重点を置きたく、泣く泣くオンライン参加をお断りさせていただきました。ご理解くださった皆さまにお詫びとお礼を申し上げます。

そういった状況も踏まえ、多くの方々に会場に集まっていたことに心より感謝いたします。

皆さまのご協力もあり、わずかではございますが、経営情報学会の発展に寄与できておりましたら幸いです。

謝辞

本全国研究発表大会では、東京理科大学学長、同経営学部学長のみならず、経営学部事務職員の皆さま、学生スタッフの皆さまに多大な協力をいただきました。記してお礼申し上げます。